

史跡カリンバ遺跡整備基本計画書別冊
恵庭市埋蔵文化財センター一編



写真撮影：（公財）北海道埋蔵文化財センター

平成 28 年 3 月

北海道恵庭市教育委員会

序

恵庭市は、道央圏のほぼ中央に位置し、「水と緑と花」をキーワードに、人がふれあう生活都市を目指すまちづくりが進められております。

恵庭市には、史跡カリンバ遺跡以外にも北海道を代表する遺跡が数多く存在します。今から約3,000年前の縄文時代後期には、華やかな漆文化が恵庭の地に花開きました。史跡カリンバ遺跡、西島松5遺跡、柏木B遺跡等から多種多様な漆塗り装身具が見つかっており、その数は日本全国で見つっている縄文の漆塗り装身具の約半数にも上ります。また、6世紀から9世紀の続縄文時代から擦文時代にかけて、西島松5遺跡やユカンボシE7遺跡等において、当時はたいへん貴重な金属製品を副葬した墓が数多く見つかっており、その質と量は北海道随一と言われております。また、柏木東遺跡では主に東北地方で造られた末期古墳と同じ形の墓が造られ、茂漁2遺跡では北海道の遺跡で唯一和銅開珎が出土しました。これらの事実から、この当時の恵庭には北方進出を狙う中央集権国家の最北の出先機関が置かれていたと考える研究者もいます。

このように全国的に見ても貴重な遺構や遺物が出土していることから、平成24～26年度に開催された史跡カリンバ遺跡整備基本計画策定委員会の中で、埋蔵文化財センターの建設が検討されました。本書「史跡カリンバ遺跡整備基本計画書 別冊恵庭市埋蔵文化財センター編」は、これらの貴重な文化財の収蔵・保管や展示・公開等を定めたもので、今後はこの計画書を基に埋蔵文化財センターの整備を検討する所存です。

最後になりますが、本計画書の策定にご尽力いただきました史跡カリンバ遺跡整備基本計画策定委員の皆様をはじめ、文化庁並びに北海道教育委員会に厚くお礼申し上げます。とりわけ、計画書の策定中にお亡くなりになられた故畑宏明氏におかれましては、病身を押して委員長の重責を担っていただきました。生前の献身的なご尽力に深く感謝するとともに、ここに慎んでご冥福をお祈りいたします。

平成28年3月

恵庭市教育委員会

教育長 穂積 邦彦

例 言

1. 本書は、北海道恵庭市黄金南5丁目12-2及び黄金中央5丁目216-7ほかに所在する史跡カリンバ遺跡整備基本計画別冊の恵庭市埋蔵文化財センター編である。
2. 本書は、事務局作成の素案を平成24年度から26年度に史跡カリンバ遺跡整備基本計画策定委員会において検討した計画案を、庁内協議を経て計画としたものである。
3. 本計画策定にあたっては、史跡カリンバ遺跡整備基本計画策定委員会を組織し、その指導のもとに行った。委員及びオブザーバーは以下のとおりである。なお、所属は平成26年のものである。

委員長	畑 宏明（財団法人北海道埋蔵文化財センター副理事長）
副委員長	山田 悟郎（元北海道開拓記念館学芸員）
委員	大萱 昭芳（デザイン文化研究室）
	岡田 宏一（社団法人恵庭観光協会事務局長）
	神長 敬（株式会社KITABA取締役副社長）
	中村 誠一（黄金南町内会会長）
	松村 博文（札幌医科大学医学部教授）
	山口 文子（カリンバの会会長）
オブザーバー	内田 和伸（文化庁文化財部記念物課文化財調査官）
	西脇 対名夫（北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課主幹）
	田才 雅彦（北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課主査）
	藤原 秀樹（北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課主査）

4. 事務局体制（平成27年度）

恵庭市教育委員会

教育長	穂積 邦彦
教育部長	中川 淳一
教育部次長	内藤 和代
郷土資料館長	菅原 伸治
郷土資料館主査	長町 章弘（事業担当者）
郷土資料館主任学芸員	鈴木 将太

目 次

<本文目次>

第1章 はじめに	1
第2章 埋蔵文化財センター整備基本計画	3
第1節 基本方針	3
第2節 展示概要	5
第1項 基本方針	5
第2項 一般展示室	5
第3項 テーマ展示室	14
第3節 収蔵	15
第1項 基本方針	15
第2項 特別収蔵庫	15
第3項 一般収蔵庫	15
第4節 調査・研究	15
第5節 サービス	15
第6節 管理	15
引用・参考文献	16

<表目次>

表1 恵庭市指定文化財一覧	3
表2 埋蔵文化財センター各室一覧	4

<挿図目次>

図1 史跡カリンバ遺跡整備構想イメージ図	2
図2 埋蔵文化財センターイメージ図	4
図3 一般展示室イメージ図	5
図4 テーマ展示室イメージ図	14